

担当者が走る! 共同募金に携わる、熱い担当者を密着取材!

# 担当者が走る!

共同募金に携わる、熱い担当者を密着取材!

阪南市社会福祉協議会 (大阪府)  
おき た も え か  
**置田 萌香さん**

共募担当歴 **2年**

生まれも育ちも阪南市の社会福祉士・置田さん。  
平成29年に阪南市社会福祉協議会に入職。  
社歴は9年目!  
令和6年度より共同募金業務の主担当となり、  
特に共同募金の広報業務に力をいれているそうです。



私が取材しました  
中央近畿  
城ブス!

今回は「共同募金の広報」を中心として取材を行いました!

このままやったらあかん!

共同募金の広報をリニューアル!

令和6年度から共同募金の主担当となった置田さん。これまでも兼任として共同募金業務には関わってききましたが、「募金の使いみちがもっとわかりやすいチラシを作りたい」と思っていたところ



表あっさり  
裏ぎっしり

チラシはデザインツール「Canva」を使って作成

大阪府共同募金会による広報研修が実施され、そこでの学びがきっかけで広報の見直しに火が付きました。  
令和6年度はチラシの内容をリニューアルしたところ、住民の理解や共感を得ることができ、学校募金が約14%、職域募金が約39%、その他の募金では約35%の実績増加につながることができました。

### 「思い」を映したデザインへ

チラシを作成するうえで、ただ目を引くデザインに変えるのではなく、地域の活動を知り、思いが伝わっていくためのきっかけとなることを大切にしているそうです。チラシには分野を問わない、地域住民の方にとって身近で様々な助成事業や、共同募金運動の概要が掲載され、多くの人に自分ごととして共同募金に関わってもらう工夫がされていました。募金をすることで私たちが暮らす阪南市がどれだけよくなるかを伝えたい、そんな思いが伝わるチラシになっています。

### 自分の気持ちこそ組織に広げるアクション

広報の大切さに気づいた置田さんは、「1人でパワーアップするだけではもったいない。それなら阪南市社協

の仲間たちみんなで広報について学んで考える場をつくりたい」と思ったところで、企画計画書を作成し上司と相談のうえで職員広報研修を昨年夏に2回実施しました。

「こういう場を作り、みんなが学び、ここで組織としてのチーム力が上がり、共同募金や地域福祉がどんどん広がっていききっかけにもなると私は本気で信じています」と語っていただきました。

### 助成を通じた共同募金の広報

阪南市社会福祉協議会では、共同募金を活用したさまざまな取り組みを

行っています。置田さんからは、色々な人や団体さんが関わる助成のしくみを作り、共同募金の理解を深めてもらいたいという想いでやっています、とお話いただきました。今回はその中でも、漁獲連携と、支え合いマップ更新事業を紹介しします。

#### 「農福・漁福連携」

阪南市社会福祉協議会では、阪南市の牡蠣小屋で出た牡蠣の殻をふれ愛福祉農園の肥料として活用し、収穫した野菜を子ども食堂や生活困窮者への食糧支援に役立てています。また、この農園で収穫した野菜は共同募金への寄付つき商品としても販売されており、活動を支える財源として活かされています。



廃棄される予定だった牡蠣殻が肥料に大変身します!



すくすく育つはっさく

#### 「支え合いマップ更新事業」

阪南市の福島地区福祉委員会では、要援護者の把握のための支え合いマップ



単身高齢者、障がい者など、ひと目で要援護者がわかるよう色付けしたシールを貼っています。

### 置田さんにインタビュー



Q 広報を見直した結果、募金実績の増加以外にあった変化について教えてください。

チラシのデザインを変えてからすぐに、地域住民の方々から「分かりやすくなった」「阪南での使いみちを知れた」と反応をいただきました。幼稚園の園長からは「分かりやすいので保護者全体にも送りたい」というお声をいただくことができました。

また、共同募金以外の事業でもチラシデザインを変えたり、インスタによる発信を行ったりと、私自身にも変化がありました。インスタを見てボランティアに申し込みました!というお声をいただくことができ、嬉しかったです。

Q 今後の目標や取り組みたいことについて教えてください。

現在寄付つき商品として販売しているふれ愛福祉農園の野菜や牡蠣肥料の情報をもっといろんな方々に届けたいと強く感じています。

この野菜や肥料はどこでどのようにどんな人たちに愛でられて、どんな思いが込められているのかその見えにくい部分を私たちが伝えていけることだと思っています。そこで初めて、「この活動を応援したい!」と募金額の増加にもつながってくると考えています。

本来、共同募金運動のフィールドは地域であり、まず向き合うべきは、募金額ではなく地域課題や地域の活動、活動者の思いのほう。

私は共同募金担当職員である前に社協のコミュニティワーカーであることをいつも胸に、これからも地域の活動の魅力をどんどん伝えていきたい。いや!伝えていきます!



思い切ったデザインのチラシを作成。このチラシを見てたくさんの方が参加してくれました!

